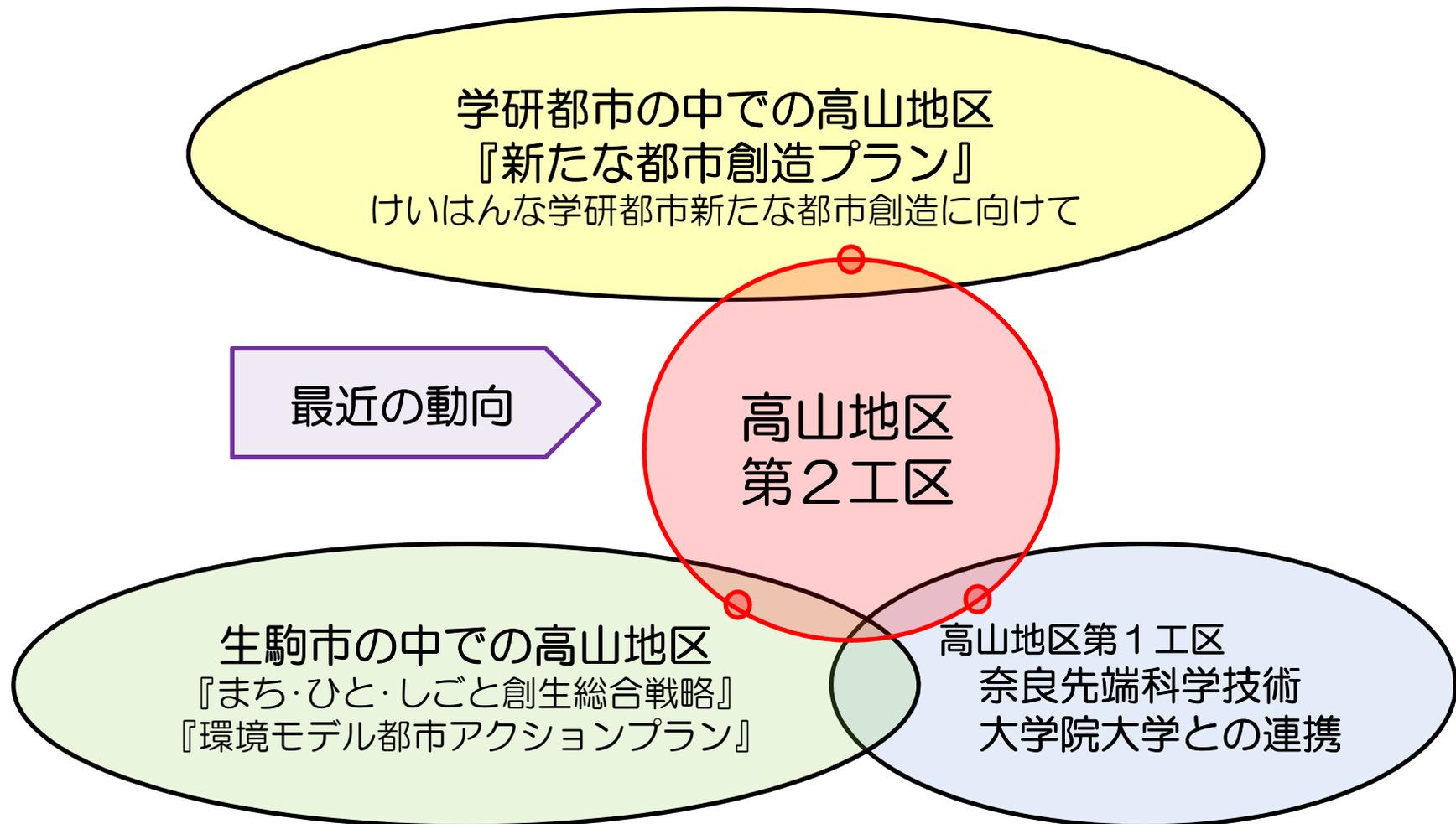


(2) 高山地区第2工区の役割

(2) 高山地区第2工区の役割

高山地区を取り巻く状況



(2) 高山地区第2工区の役割

1. 学研都市の中での高山地区第2工区

■新たな都市創造プラン（けいはんな学研都市新たな都市創造に向けて）



出典：公益社団法人関西文化学術研究都市推進機構

ビジョン実現に向けた4つの取組み

- ① 科学技術と文化の融合で知のフロンティアを開拓
- ② オープンイノベーションで世界に展開
- ③ 世界に先駆けスマートな暮らしを育む次世代インフラ整備を促進
- ④ 相乗効果を生み出すネットワーク型運営体制の構築

1. 学研都市の中での高山地区第2工区 ビジョン実現に向けた4つの取り組み

①科学技術と文化の融合で『知のフロンティアを開拓』

- 大学や研究機関等が相互に連携しながら、新たな知のフロンティアを開拓
- 持続可能社会に向け、環境・エネルギー、人口・食糧・水問題、医療など先端的な研究の展開を促進
- 大学・研究機関と立地企業等の連携による人材育成を促進

②『オープンイノベーション』で世界に展開

- マーケットを見据えた研究開発戦略構築やオープンイノベーションを基軸にプロジェクトの創出と推進を一元的にサポートできる新たな仕組みを構築し、科学技術を活用した産業化を促進
- 海外の教育・研究機関、企業の誘致を促進。居住・教育・就労などの受入れ環境を整備
- けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)やインキュベーション施設、大学・研究機関との連携強化

③世界に先駆けスマートな暮らしを育む『次世代インフラ整備を促進』

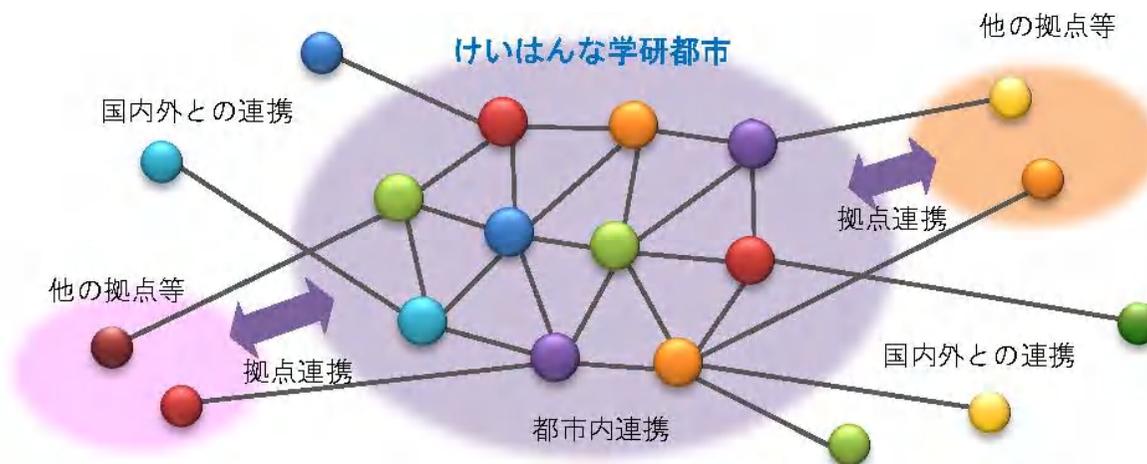
- ICTを環境・エネルギー、交通、イノベーションなどに活用して新たなライフスタイル（スマートな暮らし）を育成
- 歴史文化資源や自然環境を活かし、都市の魅力を一層向上
- 関空や大阪などへのアクセスやネットワークの強化を図るため、学研都市連絡道路（国道163号）などの主要道路の未整備区間の整備を促進
- ICTを活用した次世代型の連節バスなど、モビリティを高める新交通システム等の展開

④相乗効果を生み出すネットワーク型運営体制の構築

1. 学研都市の中での高山地区第2工区 研究拠点や地域産業との連携

(関西の研究拠点や筑波研究学園都市等と「知」のネットワークの構築)

- 府県域を超えたイノベーション支援機関ネットワークの構築
- 国等の研究機関による学研都市の研究機能の強化等
- 筑波研究学園都市等との連携による研究開発の支援強化



(地域産業との連携)

- 関西に集積立地する研究開発や産業化を支える産業集積地区との結びつきを強める。
- 地域産業との連携を図ることにより網の目のような柔軟なイノベーションエリアを形成

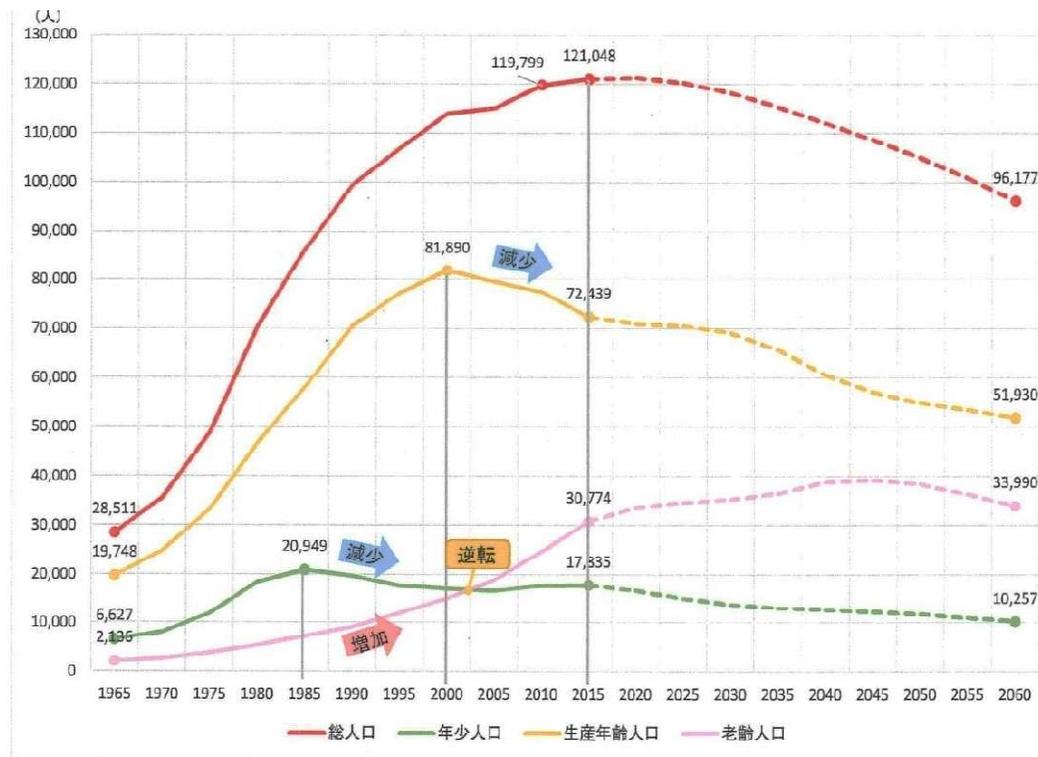
出典: 公益社団法人関西文化学術研究都市推進機構「新たな都市創造プラン」

(2) 高山地区第2工区の役割

2. 生駒市の中での高山地区第2工区

① 生駒市「まち・ひと・しごと創生総合戦略」 1 / 2

生駒市の年齢層3区分別人口の推移と予測



- 生産年齢人口の減少が顕著な少子・高齢化の進行
- 現在多い30～40歳代の若い世代が将来は減少し年齢階層のバランスに変化が生じる見通し

※総人口は年齢不詳を含むため、年齢3階層の合計と一致しない場合がある

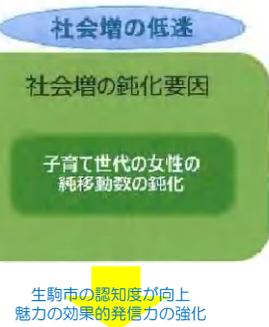
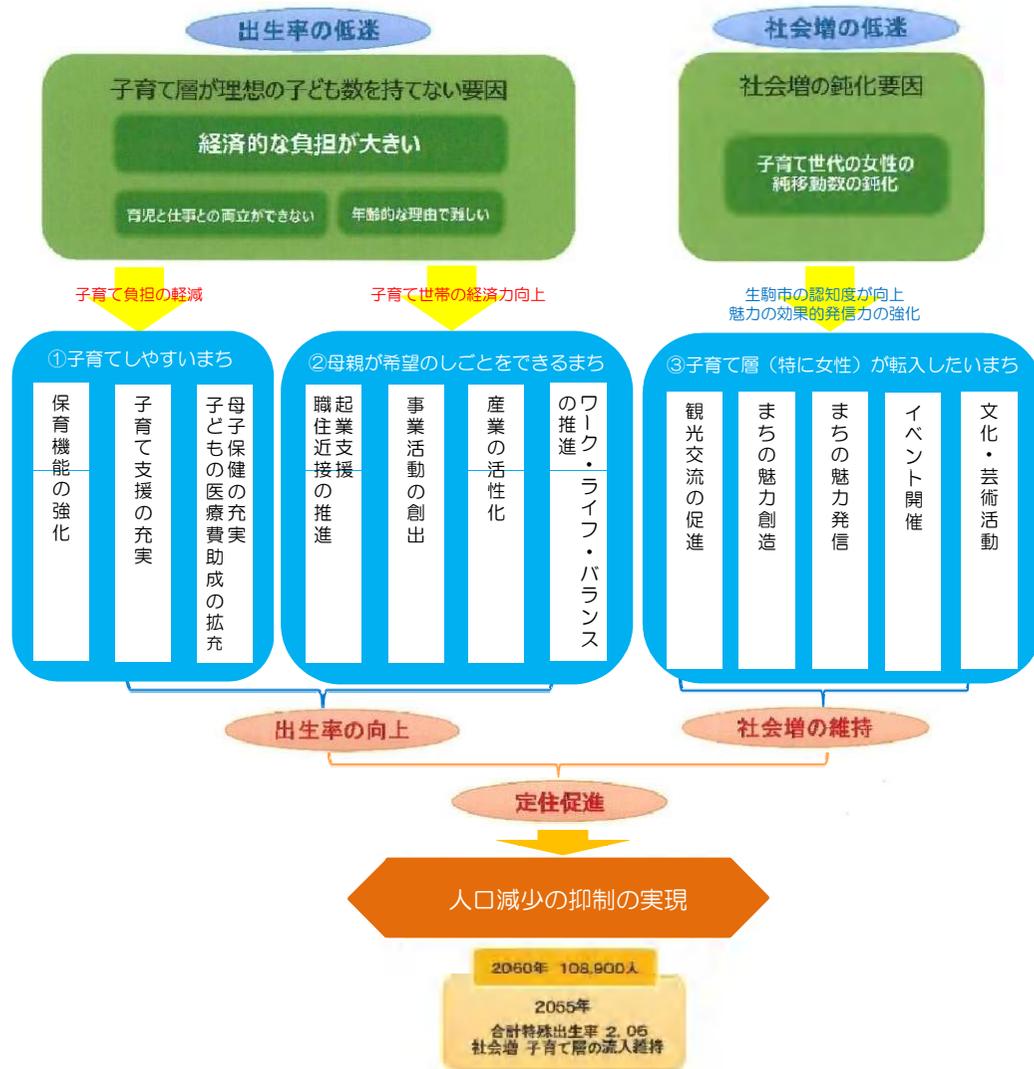
(出典)2010年までの人口は国勢調査より作成、2015年は住民基本台帳より作成

2020年以降の人口は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(2013年3月推計)」より作成

「生駒市人口ビジョン」(H27年12月)

①生駒市「まち・ひと・しごと創生総合戦略」 2/2

課題と今後の取組みの方向性



出生率の低迷や社会増の低迷



左図の取組みを進めることで、出生率の向上と子育て世帯の定住促進・転入増加を目指す。

[基本目標]

- 子育てしやすいまち
- 母親が希望のしごとをできるまち
- 子育て層が転入したいまち



女性が活躍しながら、安心して2人目、3人目の子どもを産み、育てられる先進的住宅都市・生駒

「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略」
(H27年12月)

②生駒市環境モデル都市アクションプラン 1/2

○環境モデル都市とは・・・

今後、我が国が目指すべき低炭素社会の姿を具体的にわかりやすく示すために、温室効果ガス排出の大幅な削減など低炭素社会の実現に向け、高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市を政府が選定

※未来の低炭素型の都市像を広く内外に示す役割が期待されている。

将来像「市民・事業者・行政の“協創”で築く低炭素“循環”型住宅都市」

5のモデルを構築 + 温室効果ガスの大幅な削減

① 世代循環モデル

② 低炭素・資源循環モデル

③ 環境・エネルギーと農業との循環モデル

④ 市民・事業者・行政などの協創モデル

⑤ 低炭素事業と新たなコミュニティサービスとの循環モデル

全国で23都市が選定

大都市近郊型の住宅都市として全国初！

②生駒市環境モデル都市アクションプラン 2/2

1.世代循環モデル

・都市構造の再設計に関するモデル

2.低炭素・資源循環モデル

・バイオガス・電力・熱利用による地域内資源循環サイクルのモデル

3.環境・エネルギーと農業との循環モデル

- ・安全・安心で高付加価値の農産物栽培により地産地消を図り「生駒ブランド」を確立し、地域経済の活性化につなげる。
- ・農業の6次産業化を図り、地元での雇用促進・産業の活性化につなげる。
- ・再生可能I初ギ`-や未利用I初ギ`-などを活用した農業の取組みモデルを提示する。

4.市民・事業者・行政などの協創モデル

・新電力・地域エネルギー会社のモデル

5.低炭素事業と新たなコミュニティサービスとの循環モデル

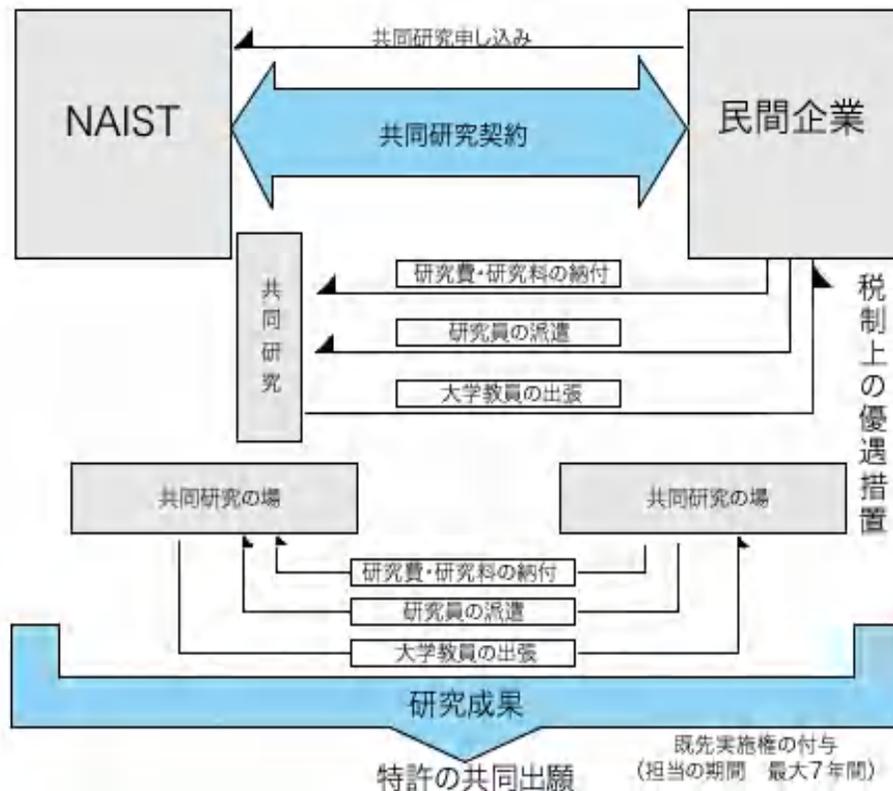
・地域の高齢者や子育て世代のニーズに応じた医療、福祉、防災等のコミュニティサービスの展開

(2) 高山地区第2工区の役割

3. 奈良先端科学技術大学院大学との連携

■ 奈良先端科学技術大学院大学との連携

民間機関等との共同研究制度



先端大及び企業等が共通の課題について、対等の立場で共同して研究を行う制度で、これにより優れた研究成果が期待できる。

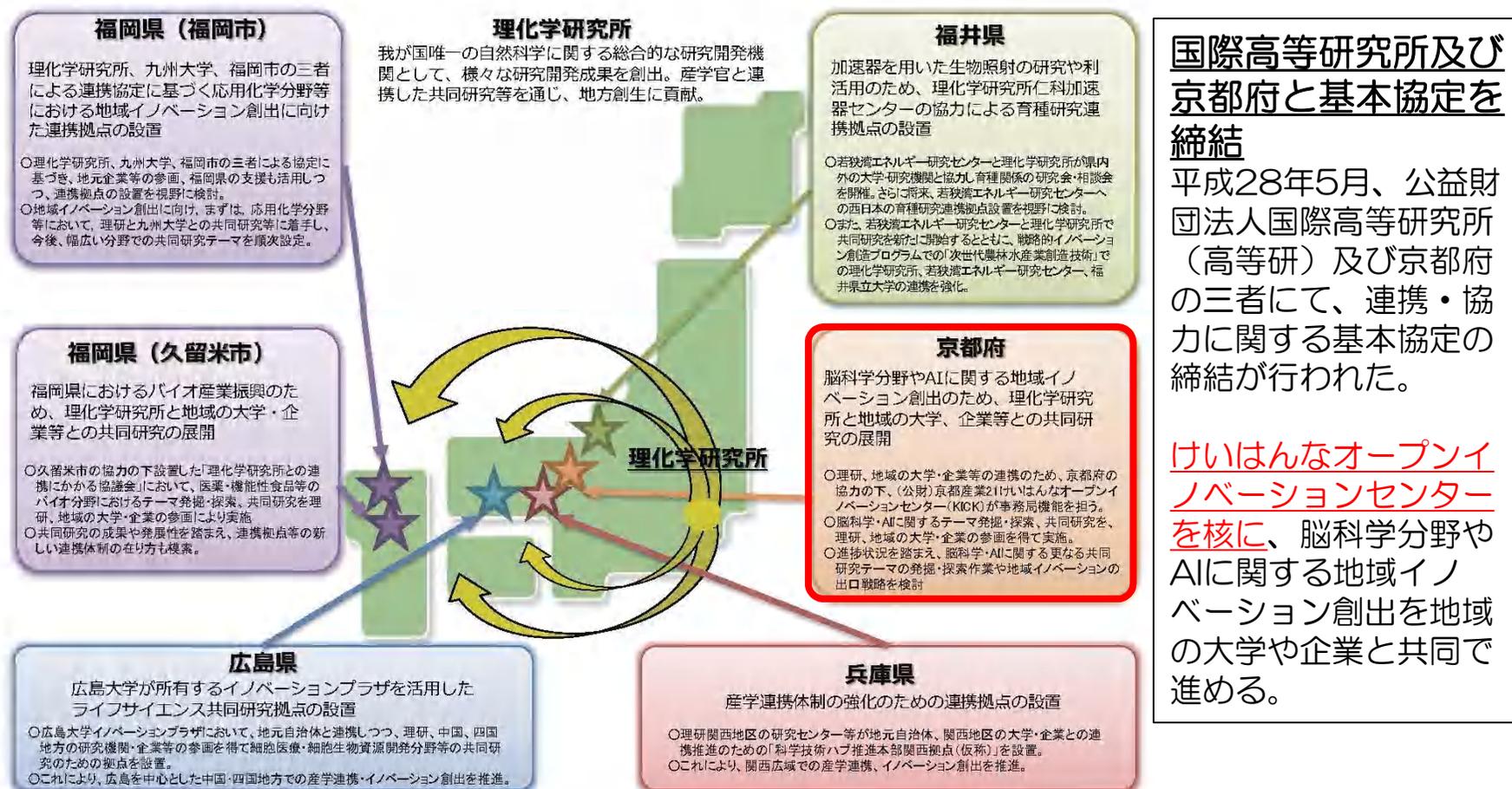
- 共同研究事例紹介
- オープンイノベーションに向けた事例紹介

出典: 奈良先端科学技術大学院大学

(2) 高山地区第2工区の役割

4. 最近の動向

国立研究開発法人理化学研究所の機能の地方移転



国際高等研究所及び京都府と基本協定を締結

平成28年5月、公益財団法人国際高等研究所(高等研)及び京都府の三者にて、連携・協力に関する基本協定の締結が行われた。

けいはんなオープンイノベーションセンターを核に、脳科学分野やAIに関する地域イノベーション創出を地域の大学や企業と共同で進める。

出典：政府関係機関移転基本方針(参考資料)

(2) 高山地区第2工区の役割（案）

- けいはんな学研都市 ⇒ 新たな都市創造プランの実現
- 生駒市(まち・ひと・しごと創生総合戦略)
 - ⇒ 職住近接の推進、事業活動の創出、産業の活性化
 - (環境モデル都市) ⇒ 環境・エネルギーと農業との循環モデルの構築
- 先端科学技術大学院大学 ⇒ 民間機関等との共同研究等
- 最近の動向 ⇒ 理化学研究所の精華・西木津地区 への機能移転



- ① 学研都市は関西全体のイノベーション推進の総合力を高めるという視点に立ち連携を強めることで関西の中心的な役割を担う
- ② 先行する中心地区「精華・西木津地区」と連担して一体的な地区とし、学研都市の拡大中心地区を形成する。精華西木津地区との連携のもと学研都市における中核的役割を担う
- ③ 精華・西木津地区と一体となって学研都市のオープンイノベーション創出の中核的機能の一翼を担う
- ④ 先端大を中心としたイノベーション拠点形成
- ⑤ 都市と農、自然環境が共生するモデル都市